

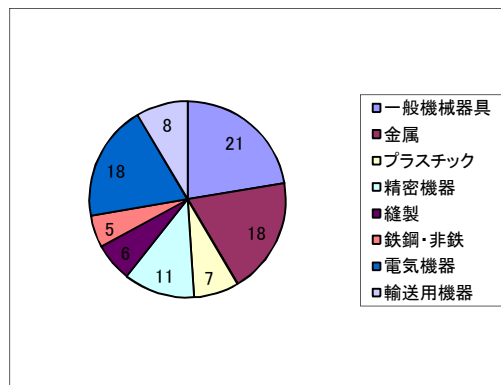
受注動向

-2011.11-

- 調査時点 平成23年10月調査(平成23年9月末時点)
- 対象企業 150社
- 調査時期 4半期毎(3、6、9、12月末時点)
- 回答企業 94社(回答率:62.6%)

<業種内訳>

一般機械器具	21	22.3%
金属	18	19.1%
プラスチック	7	7.4%
精密機器	11	11.7%
縫製	6	6.4%
鉄鋼・非鉄	5	5.3%
電気機器	18	19.1%
輸送用機器	8	8.5%



■ 全業種総合

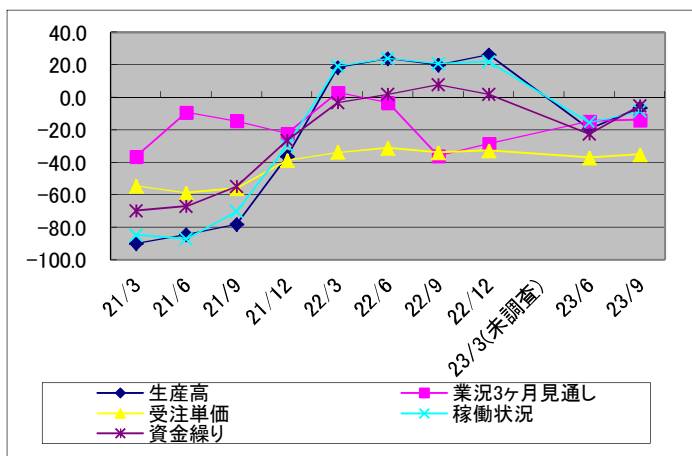
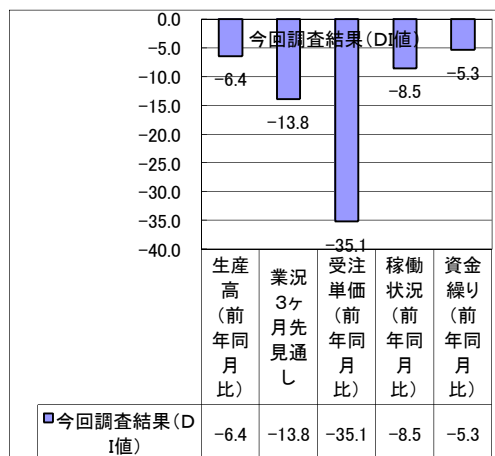
前回調査時(6月)から、「生産高」、「稼働状況」、「資金繰り」は若干の改善、「業況見通し」、「受注単価」は横ばいとなった。

「生産高」は▲6.4(前回▲19.4)で13.0ポイント、「稼働状況」は▲8.5(前回▲15.5)で7.0ポイント改善し、震災後から徐々に生産高が回復してきていることがうかがえる。

「資金繰り」は▲5.3(前回▲22.3)と17.0ポイントの改善を示すも、業種によっては原材料単価の高騰が懸念材料となっている。

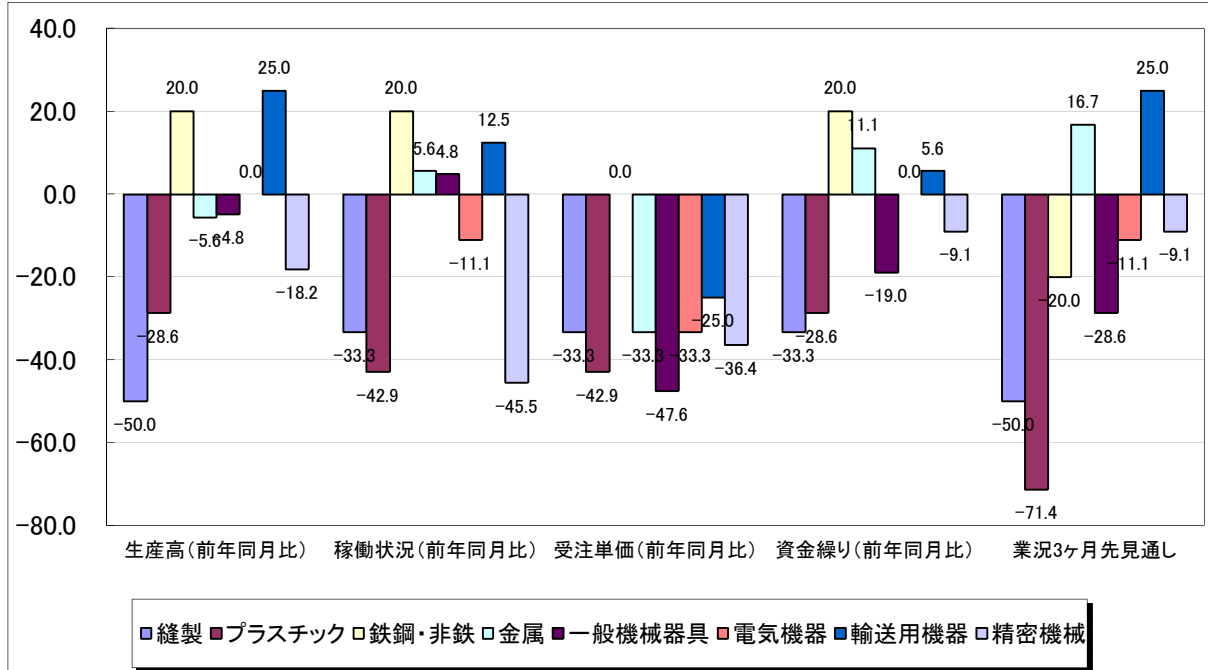
「業況見通し」は▲13.8(前回▲14.6)とほぼ横ばいを示すも、円高による影響が徐々に下請中小企業にも出てきており、先行きは不透明であるとの意見がいくつかあった。

【全業種総合 DI値推移グラフ】



■ 業種別

【今回調査結果(DI値)】

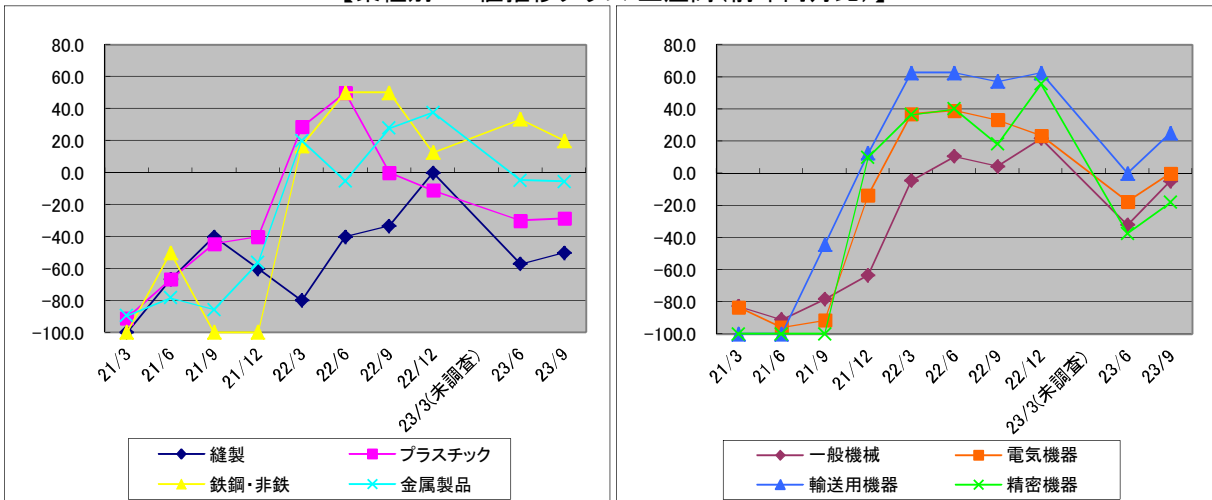


■ 生産高(前年同月との比較)

多くの業種で生産高の改善が見られるも、震災前の水準までは戻っていない結果となった。

「輸送用機器」は25.0(前回0.0)で25.0ポイントの改善となり、自動車関連業種を中心に回復が見られる。
 また、「鉄鋼・非鉄」は20.0(前回33.3)で前回から13.3ポイント悪化するも、プラスのDI値をキープした。
 それ以外の業種については、前回よりも改善か横ばいを示すも、依然としてマイナスの値である。

【業種別 DI値推移グラフ/生産高(前年同月比)】



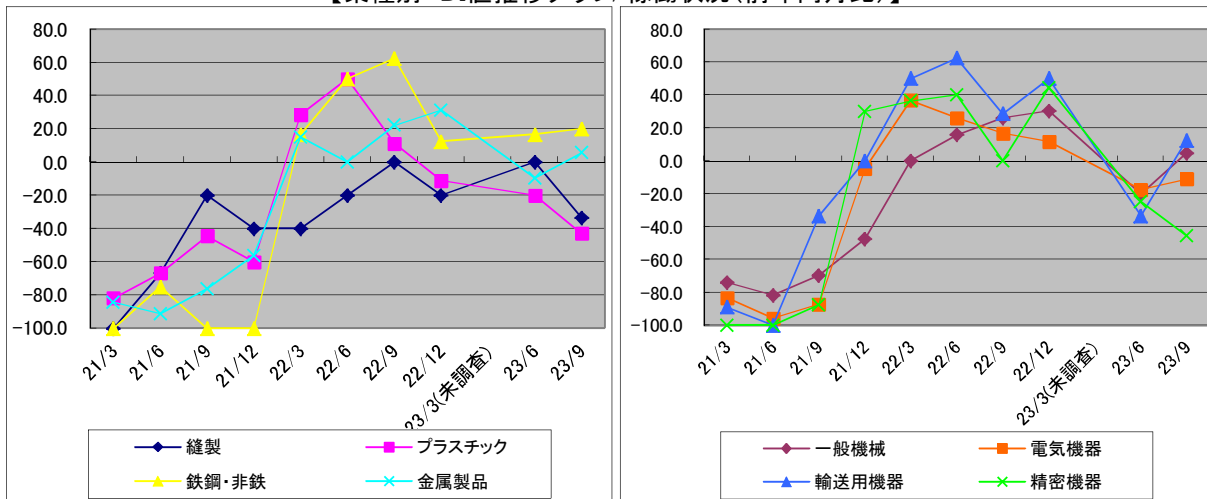
■ 稼働状況(前年同月との比較)

業種間で、傾向にばらつきのある結果となった。

「輸送用機械」は12.5(前回▲33.3)で45.8ポイントの大幅改善、「一般機械」も4.8(前回▲20.0)で24.8ポイントの改善となった。

一方で、「プラスチック」は▲42.9(前回▲20.0)と22.9ポイントの悪化、「精密機器」も▲45.5(前回▲25.0)で20.5ポイントの悪化となった。

【業種別 DI値推移グラフ/稼働状況(前年同月比)】



■ 受注単価(前年同月との比較)

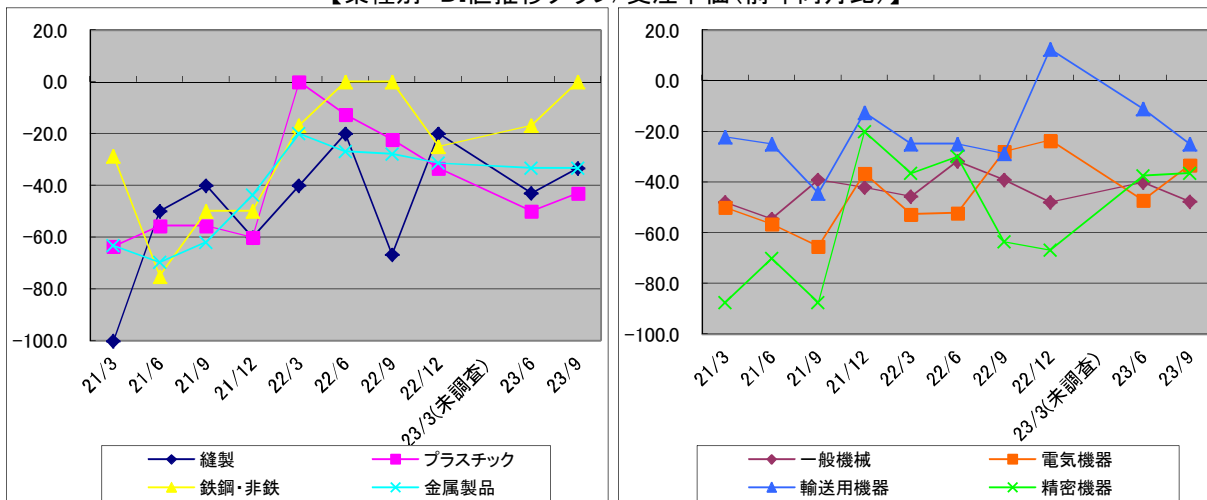
多くの業種で改善の傾向を示す結果となった。

「鉄鋼・非鉄」は0.0(前回▲16.7)で16.7ポイントの改善、その他多くの業種も、依然マイナスながらも若干の改善を示した。

一方で「一般機械」は▲47.6(前回▲40.0)、「輸送用機器」は▲25.0(前回▲11.1)と前回よりも悪化となった。

受注単価の今後の見通しとしては、現在よりもさらに厳しくなることを予想する意見が多くあった。

【業種別 DI値推移グラフ/受注単価(前年同月比)】

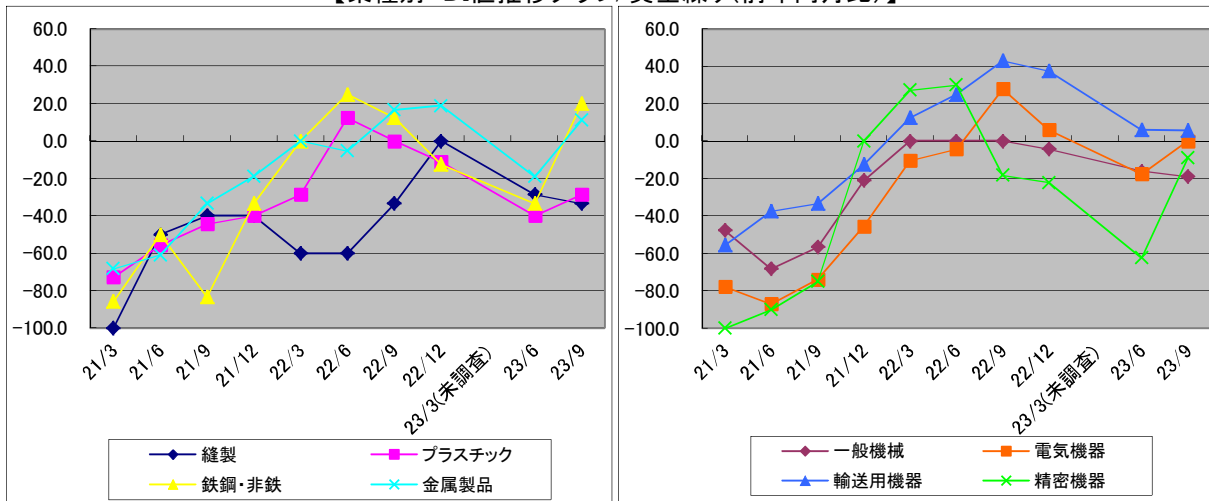


■ 資金繰り(前年同月との比較)

「鉄鋼・非鉄」、「金属製品」、「精密機械」が大幅に改善となった。

「鉄鋼・非鉄」は20.0(前回▲33.3)で53.3ポイント、「精密機器」は▲9.1(前回▲62.5)で53.4ポイントの大幅改善、「金属製品」も11.1(▲19.0)と30.1ポイントの改善となった。
一方で「縫製」、「一般機械」は若干悪化し、依然厳しい状況が続いている。

【業種別 DI値推移グラフ/資金繰り(前年同月比)】



■ 業況3ヶ月先見通し

業種間で、先行きの見通しにばらつきがある結果となった。

「プラスチック」は▲71.4(前回▲50.0)と、前回からさらに21.4ポイント悪化し、先の見通しはかなり厳しいとの結果となった。

また「精密機器」も▲9.1(前回37.5)で46.6ポイントの大幅悪化となった。

一方で、「金属製品」、「輸送用機器」はほぼ横ばいで推移し、他業種に比べると比較の見通しは良いようである。

【業種別 DI値推移グラフ/3ヶ月先の業況見通し】

